

## 「精神保健福祉士業務指針」活用法ワークショップ～演習の展開方法と留意点～ 【講師用(ファシリテーター)ガイドライン】

※演習は、業務指針第2版の活用例をワークショップ形式で行うものである。

※この演習はグループメンバー(受講者;以下、メンバーと記す)に共通教材「演習ワークシート」を配布し、それに記入しながら進めていく。

※講師(ファシリテーター)は、ワークショップ全体の進行を行う。具体的には、各ワークの説明と解説、時間管理を行う。

※以下、ワークのステップごとに、講師(ファシリテーター)の進行のポイントと留意すべき点を示す。

※ここで提示した時間配分は参考(目安)である。それぞれの演習場面に応じた時間を設定する。

時間	ワークの流れ	講師(ファシリテーター)の留意点とポイント
5分	<u>演習の目的と枠組み</u> :はじめに参加者へ伝えること	<b>【ポイント】</b> *はじめにメンバーに演習の目的を理解してもらう。本演習が事例検討(事例の解決策)ではなく、業務指針を活用してPSWの業務特性を理解し、PSW業務を説明する共通の枠組み(共通言語)を持つことが目的であることを説明する。 *続いて、メンバーに演習全体の流れを説明する。
5分	<u>自己紹介</u>	<b>【留意点】</b> *演習時間が限られているため手短に進める。以下の項目から事前に決めておくことが望ましい。 (氏名・所属・経験年数・立場・主な業務・参加動機・研修で得たいこと など) *職場や養成校など、メンバーが既に顔見知りの場合は、省略可能である。
5分	<<場面事例>> <u>医療分野における業務例:社会的な長期入院者への地域移行支援</u>  精神保健福祉士が担当となった病棟には、社会的な長期入院と考えられる方が多く入院していた。地域移行支援施策の流れを踏まえ、精神保健福祉士は意気込んで退院支援計画を検討していった。 そんな時、病棟で長年勤めているスタッフから「退院できる人は、すでに退院させている」「地域に受け皿がないから退院支援ができない」と言われてしまった。 さらに、35年間入院しているJさんに退院について話しかけると「退院させないでください」と懇願されたのである。精神保健福祉士はJさんの切実に訴える表情を見て困惑してしまった。	<b>【ポイント】</b> *場面事例は、第2版第Ⅲ部(分野別指針)の中から1場面を取り上げる。 *ここでは第2版第Ⅲ部の医療分野における業務指針の中から「社会的な長期入院者への地域移行支援」(第2版P125-126)を取り上げて例示するが、それぞれが実施する演習の目的やメンバーの背景などに応じて、分野及び場面事例を選択する。

		<p>〈step1の事前説明〉</p> <p>≪step1≫ 状況分析と課題</p> <p>あなたは、このような状況に直面した際、精神保健福祉士の価値・理念に照らし合わせて、何を意識し、何を大切にしようと思えますか？ あるいは、実習生や新人からこのような事例について相談を受けた場合、あなたは何を大切にしよう伝えますか？</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*ここはPSWの価値・理念を再確認するワークである。</li> <li>*この段階では、第2版(冊子)は開かずに、メンバーに考えてもらう。</li> </ul> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*場面事例のクライアントに集中して詳細な情報を集めるのではなく、メンバー自身が経験した(或いは見聞きした)類似の事例を思い起こし、イメージしてもらう。その上で、同様の場面においてPSWとして何を大切にすることを考えてもらうことが演習のねらいである。</li> </ul>
17分	step1	<p>〈step1のワーク〉</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*このワークは個人ワークを2分程度取ったあと、グループでの共有に15分程度を目安とする。</li> </ul> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*個人ワーク中にメンバーの記入が進まない場合は、講師(ファシリテーター)よりいくつか例示して(例;PSWとして社会的な入院をどのように捉えますか?など)記入を促す。</li> <li>*ここで、PSWの実際の動き(例;Jさんの35年の経緯をよく調べる、病棟スタッフの意識を変えてもらう、など)に発言が集中する場合は、「そうした行動をとる根拠や意図は何ですか?」と問いかけると、PSWの価値・理念(大切にすべきこと)を表す言葉が促されることがある。</li> <li>*メンバーに学生がいる場合は、場面を想像することが難しいこともあるため、その際は、授業や実習等を通じて学んだ大切にしていることをあげてもらおうとよい。</li> </ul>
10分		<p>〈step1の解説〉</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*第2版P125-126の「実践上の指針」と「業務の定義(社会的な長期入院者への地域移行支援)」、「状況分析と課題」を読み上げ、PSWの価値・理念及び視点を確認する。</li> <li>*最後にチェックポイントを読み上げ、同様の業務を行う際の留意点を確認する。</li> </ul>
1分		<p>〈step2の事前説明〉</p> <p>≪step2≫</p> <p>「地域移行支援⇒退院/退所支援」に必要な知識・技術の確認</p> <p>この業務を展開するにあたり、どのような知識・技術を必要とし、活用していますか？</p> <p>〔知識〕</p> <p>〔技術〕</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*step2では、業務を展開する上で必要な知識・技術を検討する。</li> <li>*メンバーが実際にこのような業務を展開するとしたら、どのような知識や技術を活用しているかを考えてもらう。</li> <li>*法制度、サービス内容、援助技術、実践理論など、考えられるもの、思いつくものを全てあげる。</li> </ul>

12分	step2	<p>〈step2のワーク〉</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*このワークは個人ワークを約2分程度、グループでの共有に10分程度を目安とする。</li> <li>*第2版(冊子)は開かず、日頃、メンバー自身が活用している(或いは教育課程で学んだ)知識・技術を思い出して言語化してもらう。</li> </ul> <p>【留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*知識と技術は明確に区別できないものも多くあるので、無理に分けずに合わせて書き出してもらうと良い。いずれかに分類することが目的ではない。</li> <li>*メンバーから発言が出ないようであれば、講師(ファシリテーター)より1つ2つ知識・技術を例示する。</li> <li>*法制度やサービスの発言は多いが、傾聴や受容、バイスティックの原則、アセスメント、面接技術などはなかなかあがらない場合が多いので、その点もファシリテートすると良い。</li> </ul>
3分		<p>〈step2の解説〉</p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*第2版のP61(第Ⅱ部「退院・退所支援」)を参照し、必要な知識・技術を確認する。</li> <li>*記載している知識・技術は一部であるので、講師(ファシリテーター)が考えられる知識・技術を適宜加える。</li> <li>*PSWの業務は、価値・理念に支えられ、多様な知識・技術を活用した行為であること再確認する。</li> </ul>
4分		<p>〈step3の説明〉</p> <p>《step3》 PSWの包括的視点</p> <p><u>この業務を展開するにあたり、利用者(Jさん)を取り巻く環境に目を向け、それらの環境に対してどのような働きかけが考えられるでしょうか？</u></p>	<p>【ポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*ここでは包括的視点を意識した業務の広がりをメンバーが体感できることを目的とする。</li> <li>*メゾの定義については様々な見解があるので、ここでは一先ず「専門職(集団)」と「所属機関」を「メゾレベル」と整理していることを予め伝える。</li> <li>*メンバーがマイクロメゾマクロの展開をイメージしづらい場合は、先に第2版P53-55を参照してもらい、多様な業務内容を確認してから進めるとよい。</li> </ul>

20分	step3	<p><b>〈step3のワーク〉</b></p> <table border="1" data-bbox="304 228 1008 663"> <thead> <tr> <th colspan="2">実践レベル</th> <th>考えられる業務展開</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">ミクロ</td> <td>レベル①個人</td> <td rowspan="6">Jさんの地域生活の実現に向けた働きかけ（相談支援/協働）</td> </tr> <tr> <td>レベル②集団</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">メゾ</td> <td>レベル③専門職集団</td> </tr> <tr> <td>レベル④所属機関</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">マクロ</td> <td>レベル⑤地域</td> </tr> <tr> <td>レベル⑥社会（政策）</td> </tr> </tbody> </table>	実践レベル		考えられる業務展開	ミクロ	レベル①個人	Jさんの地域生活の実現に向けた働きかけ（相談支援/協働）	レベル②集団	メゾ	レベル③専門職集団	レベル④所属機関	マクロ	レベル⑤地域	レベル⑥社会（政策）	<p><b>【ポイント】</b>  <b>[ワークの手順]</b>  step3は付箋を使ったブレインストーミング方式で行う。  手順は以下の通りである。トータル20分で以下の作業①～④が進むよう時間配分に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 参加者は付箋紙1枚に1つの「働きかけ」を記載する。ブレインストーミング。</li> <li>② 記載した付箋紙はその都度、机の中央に出してもらおう（この時点で模造紙は使用しない）。</li> <li>③ ある程度の「働きかけ」が出揃った時点で、模造紙に6つのレベルで整理する。</li> <li>④ 整理したものを参加者全員で俯瞰し、意見交換する。</li> </ol> <p>※上記の方法以外にも、個人ワーク（ワークシートに記入）を2、3分行った後、グループワークで記入内容を共有し、さらにどのような働きかけが考えられるか展開する方法も可能である（配布CD内のパワーポイントに説明あり）</p> <p><b>【留意点】</b>  * メンバーが付箋をミクロ～メゾ～マクロのどのレベルに置いたら良いのか迷っている場合は、「どこでも良いので模造紙のうえに見えるように貼り付けて下さい」と促すとよい。どのレベルに分類するかが重要ではない。  * 一つのレベルへの働きかけに偏りが見られる場合は、講師（ファシリテーター）より他のレベルへの働きかけを例示して促すとよい。  * 「働きかけ」はなるべく、「誰に対して、何を、どのように」を意識して記載してもらおうとメンバーが現場にもちかえるヒントにもなる。</p>
実践レベル		考えられる業務展開														
ミクロ	レベル①個人	Jさんの地域生活の実現に向けた働きかけ（相談支援/協働）														
	レベル②集団															
メゾ	レベル③専門職集団															
	レベル④所属機関															
マクロ	レベル⑤地域															
	レベル⑥社会（政策）															
8分		<p><b>〈step3の解説〉</b></p>	<p><b>【ポイント】</b>  * 第2版p53-55の「精神保健福祉士に共通する24の業務」を眺めてもらい、今回のワークでは、「6. 退院退所支援」が中心ではあるが、そこから多様な業務を展開していることを確認する。  * 「退院退所支援」は、ただそれだけで成り立つのではなく、関連する業務と連動して展開することを確認する。  * これが、精神保健福祉士の包括的視点であり、その業務特性であることを確認する。</p>													
10分		<p><u>クロージング</u></p>	<p>演習全体を振り返って、メンバーに一言ずつ、感想や意見を発言してもらい、共有、意見交換してクローズする。</p>													